

カトリック八尾教会ニュース 2025年9月



こんげつ よてい
【今月の予定】

じかん
ミサの時間

Tháng chín

—すべてのいのちを守るための月間（9/1～10/4まで）—

7日(日) 年間第23主日 7:00

「被造物を大切に」する世界祈願日 10:00

14日(日) 十字架称賛 7:00

「祖父母と高齢者のための世界」 10:00

祈願日

20日(土) 子ども会(初聖体勉強会) 14:00

信仰講座 16:00

21日(日) 年間第25主日 7:00

10:00

ベトナム語のミサ 15:00

23日(火) 病者・障がい者とともに歩むミサ(14:00)

28日(日) 年間第26主日 7:00

「世界難民移住移動者の日(献金)」 10:00

(故ジャック バン.アッセ神父様2013.9.1追悼)

『敬老の祝 福式』



病者のための祈りの集い(10時ミサ後)

(故ペトロ平松郡太郎神父様1984.9.26追悼)

ブロック連絡会(13:00～布施教会)

『ベトナムの子どものお祝い』(ミサ後)

教区行事(桜町教会にて)

子どもとともにささげるミサ

南地区宣教評議会(当教会にて、14時～)

【平日のミサ】 木曜日 10:00 〈4日、11日、18日、25日〉

■平和月間2025を終えて <平和祈願ミサと平和の集い> 8月3日(日) 10時ミサ後

毎年、夏になると平和について考える時となります。「日本カトリック教会平和旬間」として一人一人が平和について考えることができるよう、各小教区・ブロックで行って来ました。今年は他の教会の行事にも参加できるよう「大阪高松大司教区カトリック平和月間」となりました。前教皇フランシスコが今年の聖年テーマとして「希望の巡礼者」と定められたので、平和月間のテーマは「希望と平和の巡礼者になろう～苦しむ人、悲しむ人と共に歩む道～」となりました。八尾教会では、ベトナムの青年と子ども会を中心に作品制作や学習会、ビデオを作成をしました。

①子ども会の学習会：「へいわってなに？」をリーダーに読んでもらい、それぞれが考えた、平和の種を自分のことばで付箋に書いて、みんなで見えるように張り出しました。一人で何枚も書いてくれました。お父さんもお母さん、神父様も書きました。また、平和の心を込めておった折り鶴をひまわりの形にして、平和祈願ミサに奉納しました。

②平和祈願ミサ：日本語・韓国語・ベトナム語・ポーランド語で平和についての共同祈願をさ

さげ、子どもたちの制作したひまわりを奉納しました。

③ベトナムの青年による、ボートピープルの方のインタビュービデオの制作と上映：

《内容》元ベトナム共和国（旧南ベトナム）の兵士であったVさん（1952年生まれ）にインタビュー。Vさんは、ベトナム民主共和国の政治体制の下で不当な扱いを受け、自由を求めて脱出を決意した。幸運にも日本の木材会社に救助され一か月の航海を経て日本に到着した。その後日本政府の支援を受けて日本語を学び、仕事も紹介してもらった。8年後には奥さんと子どもを日本に呼び寄せることができ、日本人のやさしさに深く感謝していると語った。

また、当時はベトナムの政治体制に強い不満を抱いていたが、今の若者には国を築く責任感を持ち、ベトナムをより強く、より良い国にしていって欲しいと語った。（Lさん記）

《ビデオを見た人の感想》

- ・平和は自由とつながっていると強く感じた。
- ・ベトナムの人が命を懸けて脱出したことを初めて知った。
- ・子どものころ、母がベトナムの人に日本語を教えていたので一緒について行き、ベトナム料理をごちそうしてもらい一緒に過ごす時間が楽しかった。でも、つらい話を聞くことがなかった。これからも共に祈り、楽しいことをしていきたい。
- ・今回インタビューをして、初めてボートピープルの人の経験を聞いた。日本人に「受け入れてくれてありがとう」と思う。（ベトナム青年）・・・

■合同追悼式がありました 8月15日（聖母被昇天 10時ミサ後）

今年も聖母被昇天の祭日にミサが捧げられ、
続いて合同追悼式が行われました。



■ブロック四国巡礼指定教会（徳島、阿南教会）を訪ねて 7/21（月、祝）

アン神父様とかわちブロックの三教会信徒（布施、枚岡、八尾）と大東教会1名合計41名で訪問しました。早朝出発にもかかわらず、ベトナムの方の手作りの美味しいおこわの差し入れもあり、全員和気あいあいと出発。道中渋滞もなく、晴天に恵まれ、海の青さや美しい田園風景に見とれながら予定より早く、阿南教会に到着しました。信徒の方々の出迎えを受け、禁教令により厳しい迫害の時代を生きた福者ディエゴ結城了雪神父様ゆかりの地であるこの教会で、アン神父様が「私たち自身の人生が神の愛と復活を証しする小さなしるしとなるように」と話され、心あわせ、巡礼ミサをささげました。次の徳島教会では阿波の国の人であった二十六聖人の一人である聖パウロ三木の人生の歩みについて、お話を伺いました。そして、信徒の方々よりお茶のもてなしも頂きました。聖年を迎え早七か月、指定教会を巡りながら、受難の道を歩まれたキリストを想い、禁教令の時代に信仰を守り抜いた多くの殉教者の姿を黙想し、黙想と眠りの内に無事帰阪しました。残りの巡礼もガンバルぞ！（信徒K.H）

■お知らせ

◎ブロック四国巡礼指定教会（松山、高知、高松）を訪ねて 10/21（火）～22（水）

のパンフレットが届いています。＊一人でも多くの方のご参加お待ちしております。＊

◎2026年度カトリックカレンダーの申込み受付をします！

売店にて、申込みの受付用紙を設置しますので、ご記入ください。➡【締切り/9月末】

◎乳幼児のオムツ交換台を設置しましたので、ご利用ください！

➡1階ホール入口の多目的トイレ内

風蘭と共に

崔 周永神父

切に望むことは叶えられるのか、と感じている。この前の病者訪問の際、なんと風蘭をプレゼントされたのだ。何故風蘭が好きなのかを説明するのは、何故バッハやベートーヴェンの音楽が好きなのかと聞かれるのと同じような気がする。風蘭と共にいると、その、決して軽くない、しっかりしたフォルムに、一切の余計な要素のない端正さ、それに、声を張り上げて煩く自己主張をするのではなく、落ち着いて自分の生を生きていく姿に魅了されるのだ。静かに今を生き切っている賢者や君子と共にいるようで、相手の尊厳さえも高められている心境に浸る。風蘭と部屋を分かち合ってから、部屋の温度や湿度も此の友達に合わせて調整している。風蘭の根は空気中の水分や養分を吸収する上、光合成も行うので、同居前のように自分の快適さのみを求めてしまうと、此の友達には極めて都合が悪いわけなのだ。よって、空調もかなり控えめにしている。

二年前に、事務局のパキラから切り取られた枝を二つもらい、ガラスの花瓶に水を入れて育てているが、元気だった葉っぱが枯れて落ちていくのを何回も見かけている。新芽が出かけた際、新芽を成長させる為に、自分の力量に負えない既存の葉っぱをあっさり諦めては、此れからの新しい生命の営みに賭けていく。それを目の当たりにしながら自然の摂理を学んだ。古いものに拘らず、新しい領域に恐れずに踏み出していく。小さく弱い新芽が驚くほどの速さで成長していく。こういったパキラと違い、風蘭は成長が非常に遅い。これも好きだ。風蘭が入ってきた時に付けていた葉がその間いくつか落ちたので、何が原因かを突き止めようとしている。恐らく、当てていた日差しが弱過ぎたのではと今のところ推測していて、今日は午後の日差しをたっぷり浴びれるようにした。落ち葉がこれ以上増えなければと願っている。切にだ。心配と反対に、こういった風蘭の営みが新しい環境に慣れていく過程だとすると、風蘭は今しっかり考えているかもしれない。今の状況に合わせ、余計な処を削ぎ落して、一番望ましい形に自分自身を保てていこうとしているのだろうか。

もし、そうだとすると、人間も同じだと思う。与えられた環境に一生懸命適応しなければならぬ。それが理想的でなくてもだ。自分はまだ、この風蘭に相応しい友達ではないかもしれないが、謙遜に頑張ってみよう。お歳を召された方々、お教えのほど、どうぞよろしく願います。尊敬の念を込めてご挨拶申し上げます。

